

蚊ってどんな虫？

蚊は人の血を吸って生きているように見えますが、実際はそうではありません。蚊の主食は花の蜜や果汁、樹液などであり、産卵期のメスの蚊が産卵に必要な栄養を得るために吸血します。つまり、**人の血を吸うのはメスの蚊のみ**です。

蚊は吸血の際、血液の凝固を防ぐために唾液を注入します。この唾液が人体にアレルギー反応を引き起こし、かゆみが生じるのです。

また、蚊は人の血を吸うだけでなく、**病原体を運ぶ**恐ろしい存在でもあります。蚊が媒介する病気として

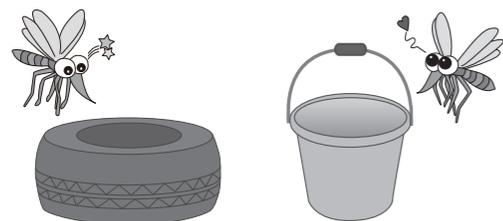
- ・マラリア
- ・デング熱
- ・日本脳炎

などがあります。日本で大きな問題になることはそれほどありませんが、知っておいて損はないでしょう。

蚊に刺されるのを防止しよう

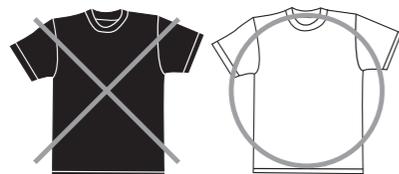
蚊が繁殖しやすい場所とは

蚊が繁殖しやすいのは、日陰で、流れのない水があるところです。植木鉢の底、庭のパケツや廃タイヤの中などにはボウフラがわくので、水を捨てましょう。



外出時の服装

蚊は人間の体温に反応するため、熱を吸収しやすい黒い服を着ている人は刺されやすくなります。白い服を着て出かけることをおすすめします。



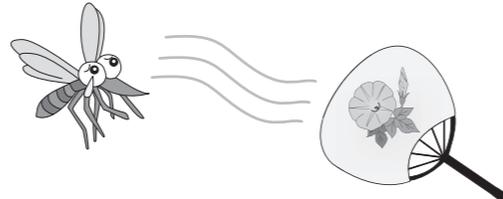
蚊が来ても大丈夫なように

蚊に刺されるのは肌を露出しているからです。外出の際はできる限り肌の露出を避けましょう。また、虫よけスプレーをして出かけるのも効果的です。



風で蚊を防ごう

蚊の飛行能力は低く、エアコンや扇風機の風でも飛行障害を起こします。外出の際はうちわや扇子を携帯し、蚊が寄って来るのを防ぎましょう。



今年も暑〜い夏がやってきました。例年蚊に悩まされる人も多いのではないのでしょうか。この記事で蚊について知り、今年は少し快適な夏を過ごしてください。

(こるぼ・remora)

「蚊」の語源

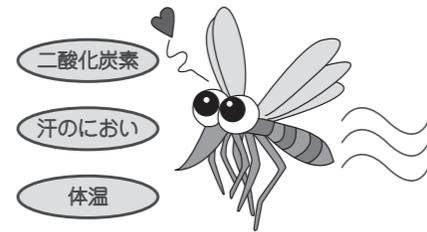
「蚊」の語源については諸説あり、「かしましい(鳴き声のやかましさ)」の下略という説、「かゆみ」の「か」に由来するという説、蚊に「噛まれた」と表現することから「噛む」に由来するという説などさまざまです。漢字の右側の「文」は蚊の羽音を表すとも「細かい」「小さい」の意味だともいわれています。

こんな人が刺されやすい

蚊は人が呼吸によって排出する二酸化炭素を感じ、より濃度の高いところに近寄って来る性質があります。そのため、お酒を飲んだあとなど、吐く息の中の二酸化炭素濃度が高いときは蚊に刺されやすくなります。

また、蚊は汗のにおいや体温にも反応するため、汗をかきやすい人や体温の高い人は刺されやすくなります。特に運動後は体温が高いうえ呼吸回数も多く、汗もかいているので格好のターゲットです。

- 二酸化炭素
- 汗のにおい
- 体温



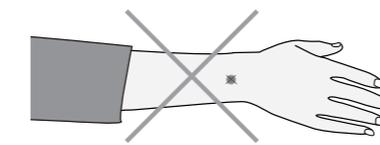
その他、左ページにもあるように、黒色の服を着ていても蚊に刺されやすくなります。白色の服に比べて熱を吸収しやすいからです。

刺されちゃったら……

かいちゃダメ！ ガマンガマン……

蚊に刺されると蚊の唾液が人体にアレルギー反応を引き起こし、かゆみが生じます。これに耐えられず肌をかきむしってしまう人は多いでしょう。しかし、これは実際には逆効果で、かけばかほどかゆみはひどくなります。刺された場所をかきむしると皮膚炎を起こしてしまい、皮膚から細菌が入ると化膿して治りが悪くなってしまいます。

なお、刺された場所に爪で十文字をつけることでかゆみを防いでいる人もいます。これは痛みの感覚がかゆみの感覚よりも伝わりやすいことを利用したものです。しかし、爪で傷がつき細菌が入るおそれがありますので、避けた方が良いでしょう。



とにかく冷やす！

蚊に刺されたときのかゆみを抑えるためには、冷やすのが有効です。蚊の体液が付着している場合は水で洗い流し、かゆい部分を水や氷、濡れたタオルなどで冷やしましょう。冷やすことによりかゆみがおさまります。



虫刺されの薬

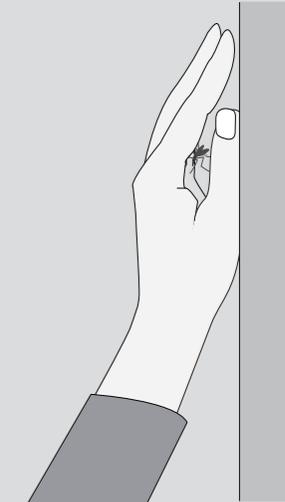
蚊に刺されたとき、虫刺されの薬があるに越したことはありません。かゆみを抑える抗ヒスタミン剤の入った軟膏を塗ると良いでしょう。かゆい部分に貼るシールタイプのかゆみ止めも市販されています。また、かゆい部分に絆創膏やセロテープなどを貼るとかゆみがおさまるといった意見もあります。効果のほどはわかりませんが、薬がなくて困ったときは試してみてください。

血液型と刺されやすさ

特定の血液型の人刺されやすい、と聞いたことがある人もいるでしょう。血液型別の実験の結果や一部の学説によればO型の人刺されやすいといわれていますが、これには異論も多く唱えられています。

人が蚊に刺される要因はさまざまであり、体温や二酸化炭素濃度など血液型以外の要因のほうがはるかに大きな影響を持ちます。「O型の人と歩けば刺されないかも」という考えは、甘いかもしれません。

蚊の退治法



壁にとまった蚊を叩きつぶして、壁や手を血で汚してしまった経験のある人も多いでしょう。このような事態を避けるために、次に紹介する方法をおすすめします。

上図のように蚊を手で覆いながら壁を叩き、風圧で気絶させます。それからティッシュなどで捕獲することで、壁も手も汚すことなく蚊を退治できます。